

ETS TOEIC 受験「今年が最後になるかなあ!？」

4月の最終日曜日、TOEICの受験に臨みました。会場は国分寺にある東京経済大学。例年は午後だったのがコロナ禍のせい今年は午前10時20分から12時20分まで。これに体温検査や受付時間を入れると都合3時間ほどになりました。

定年になってから誕生日検診みたいにはほぼ毎年3月に受験してきました。シニア向けの英会話教室の講師や中学校の学習支援員をしていることから、自分の英語のレベルを認識しておくことも必要だろうと思っているからです。それにコロナ禍でどうなるかわかりませんが今年オリンピックの大会ボランティアもあります。少しでもレベルアップができていればそれに越したことはない、との思いからでした。でもそんな甘い夢は受験で無残にも打ち砕かれた感じです。加齢からくるレベルダウンを認めざるを得ない結果になりそうだからです。



自慢をするようで恐縮ですが、定年直後にはまだ勢いもあってスコアも800点台の前半でした。でもこの数年は800点ギリギリか700点台の後半に落ちてきている。今年3月に喜寿になり「ようし、80歳の心意気を見せてやろうじゃないか」なんて生意気に挑戦したのですが……。成績の通知が来なくても自分で想像できます。“もしかしたら700点台の前半まで落ちているかもしれない”なんて。

自己診断ですが、理由の一つは前半のリスニングで聴解力が落ちていて以前には理解できていた早いスピードの英語が聞き取れなくなっていること。これはNHKの朝ドラ「おちよやん」などでも早口の台詞が聞き取れないことに通じています。関西弁だからわからない、だけではなさそうだからです。

How Do I Introduce Myself?



後半のリーディングでも理解のスピードが落ちてきている。もっとも以前から100題の質問を時間内に最後までできたことはありません（ほとんどの受験者がそうだと思います）。実用英語だから単語や構文の難しさはありませんが時間が足りないのです。そこで最後の10題余りは終了直前の20秒ほどでマークシートを適当に塗ってきました。

今回は83題まで取り組んで残りを塗る時間さえも失ってしまったのです。このテスト技術の拙劣さ！解答は4択なので平均的に言えば4題くらいは合っていて計20点くらい取れるはずなのですが、そんな意欲も薄くなってきていることも問題なのです。

それでも「80歳の受験者なんて自分しかいない」なんて粹がっているところがいいのかもしれない。約500人の受験者の会場はほとんどが学生か若いビジネスマン、OLで自分のような高齢者は見かけませんでしたから。

それにしても2時間集中して問題に取り組むことは快い疲れをもたらしてくれます。きっと脳トレにもなっているでしょう。でも今の心境は「このTOEIC受験も今年が最後になるかなあ」……。